



まるめ歯科クリニック

丸目 剛
先生

今回のアイテム

フィルムホルダー

レントゲン撮影で必要とされる「規格性」の一助となる製品

歯科治療における最も重要なファクターに「診断」がある。その診断を下す診査に於いて、はずすことができないのがX線検査であるが、私たちが日常的に用いるデンタルX線写真には非常に沢山の情報を認めることが出来る。カリエスや根先病変の診査で

は、照射方向によって得られる情報は変わってしまい、デンタル1枚で医院のレベルが分かるといふ位に繊細なものでもある。

今回はカージヤパンより発売中のフィルムホルダーだが、この製品はレントゲン撮影で必要とされる「規格性」の一助となる製品である。

製品はフィルム装着部が回転することにより、白歯部全部を撮影することが可能となっている。さらにエンドバイトを用いることで、従来の物ではできなかったエンドファイルの試適の際にも、規格性を持って撮影することができる。

根管治療においては、長期的な予後の評価も必要になって来るために、一枚一枚の規格性が無ければそれを評価することも難しく、客観的なデータの蓄積が必要とされる時代においては、医院の質が問われる部分ではないかと筆者は考える。



フィルムホルダーを口腔内に装着した状態



術前のデンタルX線写真



術後3年後のデンタルX線写真



エンドバイト ファイルを試適した状態でも撮影することが出来る。